
必然の出会い

空野 鈴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

必然の出会い

【Nコード】

N4305Y

【作者名】

空野 鈴

【あらすじ】

中学一年生になった木之本桜は街に不思議なことがおこることがなくなり、平和に過ごしていた。

しかし、ある日、再び「予知夢」を見ることになる。

予知夢には……

いつも通りの朝（1）（前書き）

カードキャプターさくらとツバサクロニクルとホリックを繋げた物語です！

主人公はカードキャプターさくらでいきます！

いつも通りの朝（1）

…さあっ…

風が頬を撫でいく。

「ここは…」

前にも見たことのある、月に照らされたタワー。

私の回りを舞っているのは…羽？

「この羽…魔力を感じる…」

なんだか…何か…似てる…

私の…私の…

……。シリシリシリシリー！！

「ほえーつつ？！」

ばたんっ！

「どうしたんや！さくら！」

私が飛び起きると目の前にケロちゃんが心配顔であらわれた。

「はにゃー…なんだ、目覚ましの音か…」

ベッドから起き上がって大きく伸びをする。

「おはよ、ケロちゃん」

そして、目の前にいる黄色い縫いぐるみ…のケロちゃんに挨拶をした。

「黄色い縫いぐるみやと？わいの真の姿を見てからも、そないなことを言っんか！」

あははは

…へ？

なんで縫いぐるみと喋っているの、って？

話せば長くなるんですよ、こりゃまた…

まとめて言つと！

私…木之本桜は小学四年生のころにお父さんの書庫で「クロウカード」と書かれた本を見つけたの。

その本には「クロウカード」という魔力を持ったカードが入っている。そのカードの番人のケロちゃんに出会ったの。

でも私が本を開けた時にはカードがなくなっていて、ケロちゃんに（無理矢理）封印の杖を使ってクロウカードを集めさせられて…

クロウカードが暴走したりして街に不思議なことがいっぱいおこったりして…

でも全部集まって…

ユエさんに最後の審判をされて…

正式にクロウカードが私の物になって…

でもクロウカードが使えなくなって…

さくらカードにして…

……。

「という感じで出会ったんだよね、私達」

「だいぶ説明が雑やったけどな」

…。

それで…今、私は中学一年生！

「スルーしたな」

今は街に不思議なことがおこることはなくなって平和に過ごして
ます！！

いつも通りの朝（1）（後書き）

微妙なところで止めてしまい申し訳ないです…

まずは「いつも通りの朝」です

予知夢には羽が舞っていた…

勘の鋭い方はもうお分かりでしょうね（、、〃）

いつも通りの朝（2）

「ところでさくら」

「ん？何？」

「多分な、今な、7時45分やと思うんやけど」

…。

時計を見てみた。

「ほえええ！」

文字盤が示していたのは『7時45分』

「遅刻するーっ！」

ドタバタ！

「中学生になっても寝坊癖が治らんない」

えとえとっ、服着替えてっ

髪結んでっ

鞆！鞆！

「よしっ！」

鞆の準備もできたしオツケー！

それを見たケロちゃんがまた一言。

「なあ、さくら」

「ほえ？」

「それランドセルちゃうか？」

ケロちゃんに言われて、自分が持つてるものを見てみると…

ランドセル…

ららら♪ランドセル…♪

「ほええっ！中学生だった！鞆変わったんだっただけっ！」

「おまえさん大丈夫かいな…」

ケロちゃんに呆れ顔で見つめられる。

ふええー…

時間がヤバイよー…

――

「んじゃあ行ってくるね、ケロちゃん！」

「行つてらっしゃい。がんばりーや」

ボタン。自分の部屋の扉をしめて急いで下へ向かう。

ダイニングにつくと、お父さんとお兄ちゃんが朝ごはんの用意をしていた。

「おはよー！」

私が声をかけると、

「おはようございます、さくらさん」

まずお父さんが返してくれた。

「おそよ、怪獣」

そして、お兄ちゃんが返して……

…怪獣？

「さくら、怪獣じゃないもん！」

もう！

お兄ちゃんは何回毎回、私のことを怪獣って言って！！

「お前が歩くと怪獣が闊歩したみたいなんだよ。」

「…むきーっ!」

「ほら、早く食わねえと遅刻すっぞ」

「あ!」

急いで朝ごはんを食べる。

うー…

胃袋が…w

「う…ごちぞ?ざまー」

食器を片付け、お父さんから受け取ったお弁当を鞆につめる。

そしてダッシュで玄関へ。

ローラースケートを履くのは時間かかるんだよね…

がちゃがちゃ。

「よし!んじゃあ…行ってきます!」

「行つてらっしゃい、さくらさん!」

いつも通りの朝(2) (後書き)

朝の話だけで二話分：w w

ピッチが遅いです、めちゃくちゃ。

次の話から、物語を動かしていこうと思います。

長い話になっちゃうんだろうな———。

友枝中学校

「ほえーっ…遅刻！遅刻！」

学校についた私は廊下を猛ダッシュしていた。

ここ、友枝中学校は友枝小学校より先の所にあるから小学校のころより早く家を出なくちゃいけないんだけど…

「小学校の時より早く起きるなんて無理だよお…」

そうこう考えてるうちに私の教室、112に着いた。

ガラガラー

「おはよー！」

扉をあけて声をかけると、

「おはよー、さくらちゃん」

皆から返事が返ってきた。

よかった…まだ先生来てないみたい…

私はほっとしながら自分の席に向かった。

「おはようございます。さくらちゃん」

私の隣の席は小学校のころと変わらず大道寺知世ちゃん。

「おはよう、知世ちゃん」

私は返事をしながら机に鞆を置く。

「今日は遅かったんですね。さくらちゃん、中学校に入ってから遅刻が少なくなりましたのに…」

「そうなんだ…実は…」

知世ちゃんに夢の話をしようとした時、

「何かあったのか？」

後ろの席から話かけてきた男の子…。

「小狼君！」

私の大切な人…李小狼君。

「おはよう、小狼君…」

「あ、ああ。おはよう、さくら」

うつつ、なんか気持ちを伝えてしばらくたってるのに恥ずかしいよー

「ふふ。さくらちゃん可愛いですわ」

「知世ちゃんっ!」

「まあまあ。それは置いておいて…さくらちゃん、何かあったんですの?」

そうそう!今朝見た夢の話をするんだった!

「実はね…」

友枝中学校（後書き）

前回から更新がだいぶ遅れてしまいました…（ ;´Д｀）ノ
のんびりペースで書いていきますが…読んでくださってる方がいた
ら嬉しいです…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4305y/>

必然の出会い

2011年11月21日12時13分発行